

看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に関する取り組み事項

部門	項目	現状	必要な対応
薬剤部	一般注射薬の調製	定期処方注射薬の調製を行っている。また臨時の高力ロリー輸液の調製依頼に対応している。	継続的に調製に携わり、薬剤の適正使用を順守することにより看護師の負担軽減に繋げる。
	入院時の持参薬報告	電子カルテ上に入院時に持参された薬剤の使用状況を入力している。併せて持参された薬剤において、特にハイリスク薬については情報提供を実施している。	引き続き薬剤師による持参薬確認を充実させることにより、適切な薬剤継続に繋げ、看護師による確認作業を簡略にするとともに、ハイリスク薬についても情報提供することにより看護師の負担軽減に繋げる。
	入院患者への服薬指導	服薬指導をはじめとした病棟薬剤業務を実施し、薬剤師による適切な患者情報や薬物療法の助言および看護師からの相談応需にも対応する。	服薬指導をはじめとした病棟薬剤業務を継続し、適切な薬物療法がおこなえるよう看護師へ情報提供を行うことにより、看護師の負担軽減につながる。
中央検査部	救急救命処置の場における業務拡大	現在、救急救命処置の場には臨床検査技師の配置を行っていない。タスクシフト、シェアの推進により検査技師を配置する。	救急救命処置の場において、臨床検査技師等に関する法律により診療の補助として実施することができるとされている採血等に加え、患者の移送や血圧測定等の医行為に含まれない補助行為についても実施する。また、採血管などの検査備品の管理をおこなう。
	臨床で実施している血糖測定器のオンライン化	病棟配置の血糖測定機が老朽化している。また、数も少ない。	病棟配置の血糖測定機を更新し、配置台数を70台から100台にする。更新のための研修を実施しメンテナンスも継続する。

部門	項目	現状	必要な対応
中央検査部	輸血終了入力未実施時の代行入力	輸血終了入力の未実施製剤について、看護師に代わり輸血部技師が電子カルテにて終了入力を行う運用に変更した。	輸血実施テンプレートもしくは看護記録を確認し、終了の記載があれば技師コメントで終了入力する。
中央放射線部	画像診断検査・放射線治療に用いるリネン回収補充	看護師・看護助手が行っていた、リネンの回収補充を行う	各検査室での必要数を確認し、リネンの回収補充を行う
臨床工学部	生体情報モニタ等の無線方式によるチャンネル管理	病棟内の生体情報モニタはベッドサイドからスタッフステーションのセントラルモニタと通信し監視できるが、無線方式では定められたチャンネルを各病棟事に割り振る必要がある。	各フロアごとに生体情報モニタ用のチャンネル番号、干渉を受けないようゾーン管理をする。必要な台数（チャンネル数）を適時対応する。
	中央手術部：医療機器管理	中央手術部で管轄する医療機器の保守点検、不具合対応および管理（アイセクターも含む）	定期点検計画および実施、破損修理や代替え機の手配、装置の更新や廃棄手続き、使用時の不具合対応。
	NICU関連：人工呼吸器対応	NICU内の人工呼吸器および保育器等医療機器保守管理全般を実施。	NICU内巡回、終業点検、セットアップ・不具合対応、在宅への指導など医療機器全般をサポート。
	血液浄化関連：透析患者対応	22時迄の夜間維持透析患者に対する看護師配置は必須	患者数に応じた看護師数配置と技士増にて対応する
	生命維持管理装置装着患者の移送	人工呼吸器やECMO等の生命維持管理装置装着患者のCT検査や手術室等の病棟との往復移送時の対応	新生児の手術時やECMO装着患者の検査・転院での移送を安全に行えるよう同行する。
	中央機材室管理下の機器貸し出し手続きをオンライン化する	中央機材室の機器在庫状況がリアルタイムに現場では把握できないため、必ず電話で確認してから貸し出し準備をしている。電話予約する前に前もって取りに来る看護助手等が供給不足下になると2度手間になる場合も多々ある。	機器管理システム導入を検討し、貸し出し状況を病棟等から電子カルテ端末を利用して確認でき予約をオンライン化することでデジタル化と電話応答の時間短縮と、貸し出しの無人化が図れる。
	人工呼吸器の回路交換時のサポート	人工呼吸器等の使用患者さんに対し回路交換やその他の相談事に対して現場へのサポート要請がある	人工呼吸器関連のサポート要請に適正な対応をする

部門	項目	現状	必要な対応
臨床工学部	血行動態モニタ使用時のセッティング	血行動態モニタによるスワンガンツカテーテルによる心拍出量測定時の専用モニタと生体情報モニタとの連携のセッティング	カテーテル挿入時から立ち合い、モニタの設定や接続を行う